

## 自己評価及び外部評価結果

令和元年度

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472301074	事業の開始年月日	平成17年10月1日	
		指定年月日	平成17年10月1日	
法人名	有限会社 フェルシ			
事業所名	グループホーム ぼぼ箱根板橋			
所在地	(〒250-0034) 小田原市板橋933-3			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	令和1年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和2年2月13日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>目の前に小田原の郷土資料館があり、四季折々の花を楽しめる環境に立地しています。ホームでは日課として、体操、散歩、歌のレクリエーション等を行い、ご利用者の心身の活性化を図っています。 また、厨房職員を配置しており、手作りの食事を提供しています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年12月11日	評価機関 評価決定日	令和2年1月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、箱根登山鉄道の箱根板橋駅から徒歩約8分の住宅地に立地し、近くには松永記念館や香林寺など歴史的な庭園や建物、寺院が点在して、利用者が安心して散歩を楽しむことができる環境にある。建物は木造2階建てで、1階の床は楓材、2階は桜材を使用するなど木の温もりが感じられる和風づくりで、歩歩グループに所属する有限会社フェルシが運営するグループホームである。</p> <p><b>【理念に基づく支援の実践】</b> 「家庭的な雰囲気大切にします」、「心身の活性化を目指した環境を作ります」、「安心した生活が送れるようお手伝いします」の3つの理念を大切に支援を行っている。職員は、毎朝の申し送り時に理念を唱和することで、常に理念を意識した支援をしている。食事は専任の厨房職員が手作りで、調理時の匂いや音が醸し出す家庭的な雰囲気を大切にしている。職員は笑顔で声掛けや誘導をして、家族の一員として利用者に接している。毎日午前と午後の体操や、スクワット、散歩や外食レクリエーションなどを通し、できることは利用者がやるように努めて見守りを重視し、心身の活性化を図っている。利用者の意向を丁寧に把握し、不安を受け止め、安らかな生活が営めるように支援している。</p> <p><b>【職員の主体的な活動】</b> 職員は、毎月カンファレンスやミーティングに積極的に参加し、活発な意見交換をして事業所の運営に関わっている。事業所の年間行事は職員が責任をもって企画し、実施している。利用者の希望を聞いて、ハロウィンパーティーを計画したり、利用者の要望を把握して、食事のメニューを変えたり、常に利用者の気持ちを大切にしている。</p> <p><b>【地域との連携強化】</b> 大窪自治会に加入し、どんど焼きなどの行事に参加している。神社のお祭りでは神輿や山車が事業所に立ち寄り、地域の方が木遣りを歌ってくれる。フルーツ、ハーモニカ、オカリナなど多くのボランティアの来訪があり、利用者と交流している。高校生の職場見学や中学生の社会科見学なども受け入れている。事業所の秋祭りには地域の方が参加している。近くの松永記念館が主催する「夢見遊山いたばし見聞録」に参加している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームほほ箱根板橋
ユニット名	かえで

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解にむけた働きかけを行っている。	理念は、開設時に管理者と職員が作成したもので、事務所に掲示して朝の申し送り時に唱和している。専任の厨房職員が食事を手作りし、調理の音や匂いが醸し出す家庭的な雰囲気を大事にしている。午前と午後、毎日2回体操やスクワットをし、できることは利用者がやるように、職員は常に笑顔で家族の一員として優しく見守り、きめ細かな支援を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流している。	大窪自治会に加入して、地域の「どんど焼き」などの行事に参加している。地域の神社のお祭りでは神輿や山車が事業所に立ち寄り、地域の方が木遣りを歌ってくれる。高校生の職場見学や中学生の社会科見学も受け入れている。運営推進会議と同時に開催する事業所の「秋祭り」には、家族や地域の方が参加している。フルーツ、ハーモニカ、オカリナなど多くのボランティアの来訪がある。近くの松永記念館が主催する「夢見遊山いたばし見聞録」では利用者がじゃんけん大会やコーラスに参加して地域の方と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談日を設け、去年に引き続き開催している。(毎月11日)相談に応じて地域包括支援センターに繋げている。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み          運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>施設行事の秋祭りに地域住民・民生委員・地域包括センターの職員を招待し日常生活状況を紹介している。</p>	<p>運営推進会議は参加者の都合もあり、今年度は4回開催の見通しだが、来年度は6回開催を目標としている。年に1度の事業所の「秋祭り」とは同時開催で多くの家族の参加がある。参加者は、利用者や家族、自治会副会長、民生委員、オーナー、地域包括支援センター職員、管理者、職員である。事業所の運営報告や事故報告、地域情報の交換などを行っている。災害時の対応について、2階の車いすの方を避難させるのにどうしたらよいか相談しており、「2階エレベーター前に車いすの方が2名待機しています」と通報時に消防署に連絡するルールを作るようにした。また古い布団などを階段に敷いたらどうかなどの意見があがり、消防署と相談している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携          市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>申請代行や生活保護受給者の手続き等の際、困った事等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。</p>	<p>小田原市高齢介護課が窓口で、要介護認定更新の手続きをしているほか、生活保護課へおむつ代の請求に行っている。小田原市グループホーム連絡会に加入して行政や他の事業者と意見交換し、研修や「RUN伴+小田原」に参加している。保健所のインフルエンザ予防に関する研修に参加している。小田原市の介護相談員が毎月2名来訪している。地域包括支援センターのケア会議にも参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度「身体拘束等適正化委員会」を実施し身体拘束廃止に向けて、取り組みを行っている。	身体拘束をしない旨、運営規定に明記している。「身体拘束等適正化委員会」を設置し、3ヶ月ごとに開催し、議事録を残している。不意に外出する方が入所し、安全のため家族の同意を得て、1階フロアの出入り口のみ施錠している。外出したい素振りが見えた時には職員が一緒に対応している。強い口調や否定的な言葉など、言葉遣いについては、スピーチロックチェック表を利用して十分注意している。夜間センサーを使用する方がいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束廃止の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明をしている。		

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映          利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族の面会時、ご本人の様子を伝えまた、意見や要望を伺いカンファレンス時職員に伝えている。</p>	<p>運営推進会議や来訪時、介護計画の更新時にも家族から要望を聞いている。家族の要望で、紙パックのジュースを提供している方もいる。家族の来訪のない方には電話や手紙で連絡を取っている。3ヶ月毎に「ぼぼだより」を発行して事業所の活動状況や行事案内などを知らせている。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。また、個々に意見を聞く機会を設けている。	年2回、個人面談を7月と11月に実施して、職員の意見や要望を聞いている。賃金の問題があり、夜勤手当を見直している。環境衛生面から次亜塩素酸の消毒液などの設置の要望があり対応している。毎月のフロアミーティングや朝の申し送り時にも意見や要望を聞いている。毎月の行事については、職員が担当制になっており、企画から実行まで、他の職員の協力を得て運営している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じ、ステップアップの為の研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加させる機会を多く作っている。小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修等に参加し易い環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修時に参加し易い環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に施設を見学、あるいは体験入所をして頂き、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡し、状況を確認すると共に自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風習などをご利用者から教わり、一緒に暮らす物同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるかご家族に出来ること、施設で出来ることを一緒に話あえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。また、手紙や電話等の代行をし、馴染みの関係を継続し易いよう、配慮している。	家族や友人の来訪があり、居室でお茶の接待をしている。家族対応で美容室に行ったり、外食したり、正月に帰宅する方がいる。月に3回ほど家族が迎えに来て、自宅に戻って、近所の方と一緒にお茶を飲んで過ごしてくる方もいる。家族から携帯電話を預かって電話や手紙の取次ぎをしている。洗濯物を干したり、畳んだり、できることをやり続けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯畳などの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新等時に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常の関わりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。	入所時のアセスメントや、家族の来訪時に思いや意向を把握している。日常の支援の中で職員は利用者の意向の把握に努めている。意思疎通の困難な方には、表情やしぐさから把握するよう努めている。朝食はパン食という要望に対応している。把握した意向や要望は「介護支援経過記録」に記録して、職員間で共有している。個別対応でお寿司やステーキなどの外食を楽しむことがある。利用者の要望で名店の豆大福を買いに行くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。1人ひとりの趣味などの把握に努め、また、1人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいたことを話し合い時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。	入所時のアセスメント、家族の意見や要望を把握して、初回介護計画を作成し、1ヶ月後に見直し、医師や看護師、家族、職員の意見を反映させて、新たに介護計画を作成している。短期目標は6ヶ月、長期目標は1年で見直し、変化がある時はその都度見直している。見直しは原則職員全員が参加するカンファレンスで意見交換している。介護計画のサービス内容を「サービス計画チェック表」に記述して、職員は記録時に確認している。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>生活記録簿にケアの実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診て頂いている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。	従来のかかりつけ医の精神内科を受診している方が2名で、管理者が付き添っている。協力医の内科を利用している方が16名で、月2回の往診がある。歯科医が月1回、マッサージ師を利用する方が2名で、月2回の来訪がある。看護師が2名交代で毎週3回来訪し、健康管理している。受診内容は「訪問診療議事録」に記入し、職員間で共有している。協力医や看護師はオンコールで、24時間連絡が取れて安心な体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう支援している。		

32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関との連携を行っている。</p>		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明を行っている。また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医・ご家族・職員とで情報を共有し支援にあたっている。	入所時に重要事項説明書に基づいて看取りについて説明している。利用者の重度化が進んだ場合には家族の意向を把握して「看取り介護指針」の内容を説明し、同意を得ている。「看取り介護についての確認書」を取り交している。本年1名の看取り介護をしている。職員の研修はカンファレンスで実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。2回目は火災による避難訓練、水消火器による消火訓練を実施した。	本年2回の消防訓練を実施している。1回は消防署立ち合いで、2回目は、自主避難訓練である。本年度夜間を想定した訓練は実施していない。事業所の避難訓練には地域の方の参加がない。家具などは転倒防止の処置をとっている。備蓄は飲料水5日分、白飯のパックが6日分、即席豚汁が3日分、カセットコンロにガスボンベ、防災シートなどで、リストで管理している。広域避難場所は事務所前の広場になっている。	事業所の防災訓練に地域の方の参加がない状況です。夜間を想定した訓練も実施しておりません。ぜひ地域の方を巻き込んだ夜間を想定した訓練の実施を望みます。運営推進会議で地域の方の参加協力を要請することを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。	毎年接遇の研修を実施しており、言葉遣いについては注意している。トイレ誘導の際には、さりげなく、周囲に気づかれないようにしている。トイレと浴室が隣接し、排泄に失敗しても、プライバシーに配慮した造りになっている。個人情報 の記述された書類は1階事務所のカギのかかる戸棚に保管している。出来る限り紙仕様の資料を残さないように、アイパットを使用して、管理者が管理している。居室に入るときにはノックをして声をかけて入室している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご本人方々が何をされたいか希望を聞いている。その中で出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人から衣類など欲しいと要望が聞かれた時は、要望に応じている。また、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>その時期にしか召し上がれない旬な食材を提供し食事を楽しんで頂いている。外出レクリエーションを行いご本人の好きな食事を楽しんで頂いている。</p>	<p>食事は専任の厨房職員により手作りのものを提供している。献立は厨房職員と介護職員が相談して、利用者の要望を取り入れて決めている。食材は厨房職員が買いに行っており、鮮魚は馴染みの店から配達してもらい、生協の宅配も利用している。利用者の体調に応じて、きざみ食やとろみ食にも対応している。利用者は、テーブル拭きや食器拭きなど出来る事をしている。職員は介助をしつつ、同じものを食べている。年に1度の外食レクリエーションでステーキやお寿司を食べに行くこともある。花見のお弁当、クリスマスのケーキや握り寿司、正月のおせちなどを楽しんでいる。入所時に自分の使い慣れたお椀や箸を持ち込み、そのまま使っている方もいる。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスを考慮し提供している。水分は、食事以外でも提供し1日の水分量を確保している。また、普通食を召し上がれないご利用者には、訪問診療医よりエンシュアリキッドを処方して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行なえる人も、必要に応じて職員が口腔内のチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を参考に、1人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表で排泄パターンを把握して、定期的に声をかけてトイレ誘導している。布パンツを使用している方が2名で、紙おむつの方が4名、その他の方はリハビリパンツとパッドを使用している。トイレは各フロア2ヶ所で車いす対応である。夜間は声をかけてトイレ誘導したり、紙おむつとパッドを使用して、睡眠を優先している方がいる。居室でポータブルトイレを使用する方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心かけている。	入浴は原則、週2回であるが、入浴したいという要望があればその都度対応している。浴室にはリフトが設置されており、車いすの方も浴槽で入浴している。体調に応じてシャワー浴や清拭の方もいる。エアコンと床暖房があり、ヒートショック対策がなされている。同性介助の要望はなく、入浴を拒む方もいない。浴槽のお湯は毎回変えている。ゆず湯やしょうぶ湯で季節を楽しむこともある。	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。月初めに体重測定を行い体重の変化や異変について確認出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、1人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。1人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活できるような援助を心かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう散歩を日課としている。外食レクリエーションを実施し、ご利用者の希望される食事処に職員と出かけている。	天気の良い日には近くの松永記念館や香林寺を散歩している。車いすの方も出掛けている。玄関前のベンチで日光浴や外気欲を楽しむ方もいる。小田原フラワーガーデンに行ったり、近くの香林寺に花見に行っている。家族対応で日帰りの温泉に出掛ける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な時は、少額の管理はして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心掛けている。	リビングの窓は広く、隣の松永記念館の見事な紅葉が見えて季節を楽しむことができる。空気清浄機や加湿器が設置しており、毎朝窓を開けて換気に気を付けている。1階の床は楓、2階の床は桜の木を使用し、木の温もりが感じられる。廊下は広く車いすが交差できるようになっている。掃除は職員が実施し、できる利用者がモップをもって一緒に掃除している。壁には行事の写真やクリスマスツリーの貼り絵など、手作りの作品が飾られ季節感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入居時にお持ち頂けるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。	空調設備、照明器具、防災カーテンが備え付けられている。利用者は手作りの自分の作品や、テレビ、鏡、たんす、仏壇、家族の写真など馴染みのものを持ち込んでいる。居室担当者が衣替えや布団などの入れ替えをしている。清掃は職員とできる利用者が一緒にしている。表札は木製で、クリスマスの飾りやサンタクロースの折り紙が飾られている。換気には注意し、清掃時に毎朝窓を開けている。	

55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		
----	---	------------------------------------	--	--

事業所名	グループホームほぼ箱根板橋
ユニット名	さくら

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員に対して朝の申し送り時、理念を管理者、職員で復唱する事で理解にむけた働きかけを行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域のお祭りや防災訓練に参加し交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談日を設け、去年に引き続き開催している。(毎月11日)相談に応じて地域包括支援センターに繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設行事の秋祭りに地域住民・民生委員・地域包括センターの職員を招待し日常生活状況を紹介している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	申請代行や生活保護受給者の手続き等の際、困った事等相談する機会を設けている。また、行政主催の会議や研修等に出席し、連携を深めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度「身体拘束等適正化委員会」を実施し身体拘束廃止に向けて、取り組みを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待行為を否定し、人権を大切にしている。身体拘束廃止の研修の際、確認しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員、管理者は権利擁護に関する研修に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に説明を行い、変更等が生じた場合は、その都度丁寧に説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時、ご本人の様子を伝えまた、意見や要望を伺いカンファレンス時職員に伝えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のカンファレンスに出席し、職員と意見交換を交わしている。また、個々に意見を聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の勤務状況を把握し、賞与査定時に反映させている。また、経験年数に応じ、ステップアップの為の研修に参加させている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加させる機会を多く作っている。小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修等に参加し易い環境を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	小田原市グループホーム連絡会に参加。会員施設のケアスタッフが研修時に参加し易い環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時に施設を見学、あるいは体験入所をして頂き、不安感や困り事を傾聴し、安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居が決まった段階で、現在の本人の状況を確認し、ご家族の不安感や困り事、要望を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に在宅サービスをプランニングしていたケアマネジャーへ連絡し、状況を確認すると共に自宅等へ訪問して、アセスメントを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の会話の中から、昔の風習などをご利用者から教わり、一緒に暮らす物同士の関係を構築している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に、ご本人の日々の状況を説明し、ご本人の望む暮らしをどのように提供できるかご家族に出来ること、施設で出来ることを一緒に話あえるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも面会に来られるよう、施設をオープンにしている。また、手紙や電話等の代行をし、馴染みの関係を継続し易いよう、配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で行うレクリエーションや洗濯畳などの作業を中心に日中は出来るだけリビングで過ごして頂くよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご家族から相談があった時には、守秘義務に配慮しながら、対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時やケアプランの更新時等に、ご家族やご本人から意見を聞いている。また、日常の関わりの中でも、ご本人の思いを把握するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、生活歴について聞き取りをし、現在の生活状況等の確認も行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体操・散歩等を日課として行っている。1人ひとりの趣味などの把握に努め、また、1人ひとりの心身状態や有する力の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月カンファレンスを全職員参加で行っている。利用者のケアで気づいたことを話し合い時には家族との話し合いを持ちながら、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録簿にケアの実施・工夫などを記入し、職員間で情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内グループのマンパワーを活用し、柔軟な支援体制を確立している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを活用し、懐かしい曲を鑑賞したり唄ったりしながら、日々の暮らしを楽しまれている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	昔からの主治医に診て頂いている方は、ご本人の希望を尊重し、通院介助を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常で気付いた情報を看護職員に伝え、相談している。看護職員は、ご入居者に対し、状況に応じて診察を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、介護サマリーを作成し、ご本人の状況について、情報提供をしている。急性期が過ぎた段階で速やかに退院できるよう、医療機関との連携を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りについての説明を行っている。また、重度化した場合や終末期の在り方については、訪問診療医・ご家族・職員とで情報を共有し支援にあたっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者の急変や事故発生時に備えて、緊急対応マニュアルが作成されている。応急時の対応についても行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行っている。1回は消防署に通報する訓練を交えた火災避難訓練。2回目は火災による避難訓練、水消火器による消火訓練を実施した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いや態度に気をつけるよう対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間などに、ご本人方々が何をされたいか希望を聞いている。その中で出来る事を提案しながら、ご本人が決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	ルーティンとしての日課はある程度決まっているが、ご本人のペースで行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人から衣類など欲しいと要望が聞かれた時は、要望に応じている。また、ご利用者の希望に併せて、訪問理美容を提供している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その時期にしか召し上がれない旬な食材を提供し食事を楽しんで頂いている。外出レクリエーションを行いご本人の好きな食事を楽しんで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は、栄養バランスを考慮し提供している。水分は、食事以外でも提供し1日の水分量を確保している。また、普通食を召し上がれないご利用者には、訪問診療医よりエンシュアリキッドを処方して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。自分で行なえる人も、必要に応じて職員が口腔内のチェックをしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排尿チェック表を参考に、1人ひとりに声をかけ、自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前、午後に体操を行い、散歩を日課としている。食物繊維の摂取にも心がけている。排泄状態の把握に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴のスケジュールはあるが、その日の体調やご希望に合わせて、個別対応を心かけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後の休息への声掛けを行っている。日中の適度の運動により安心して気持ちよく安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明書を確認し、理解している。月初めに体重測定を行い体重の変化や異変について確認出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の家事などを、1人ひとりの状態に合わせて、皆で行っている。1人ひとりが役割を持ち、楽しみながら生活できるような援助を心かけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけられるよう散歩を日課としている。外食レクリエーションを実施し、ご利用者の希望される食事処に職員と出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理は施設で行っている。ある程度の自己管理が可能な時は、少額の管理はして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、ご本人が書かれたお手紙を投函している。また、電話の取次ぎ等の援助をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の木材を利用した建物で、木の香りや温もりが心地よい環境になっている。玄関や洗面台に季節の草花を飾り、家庭的な雰囲気になるよう、心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやテーブルが置いてあり、いつでも交流できるようになっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を入居時にお持ち頂けるよう、パンフレットに明記し、慣れ親しんだ居住空間に近づけるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、廊下、風呂場等に手すりを配置し、自立を促すよう配慮している。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームほほ箱根板橋

作成日 R.2年2月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	○運営推進会議を 場とした取組み	○次年度は運営推進 会議を6回開催 する。	※年間のスケジュールを ○1回 4月 ○2回 11月 ○3回 6月 ○4回 1月 ○5回 9月 ○6回 3月 (事業所主催の秋祭り 火災を想定した避難訓練 地域住民の協力を得る)	R.2年4月1日  S  R.3年2月3日
2	05	○災害対策	○地域住民に参加 頂き防災訓練等 年2回実施する。	○事業所の消火火災訓練 地域住民に参加 頂き実施する。 ○地域で行われる 防災訓練にも参加 する。	R.2年4月1日  S  R.3年3月3日
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。